

Design

～ 距離を保ちましょう～



発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟広報誌Design号外55号です。病診連携会議の報告と患者サポート推進室からの報告です。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

第17回病診連携会議が開催されました。

～これまでの新型コロナウイルス対策を振り返る～



令和2年9月5日（土）、当院9階会議室で、第17回病診連携会議が開催されました。病診連携会議は、相楽医師会の先生方とこの圏域の3病院（当院、精華町国保病院、学研都市病院）との連携強化を目的として、毎年9月の第1土曜日に開催されています。テーマは、毎年の春頃、医師会の担当の先生を中心に、前述の3病院の担当者を交えて決定されます。今年は、「これまでの新型コロナウイルス対策を振り返る ～地域の感染拡大に備えて～」というテーマで開催することに決まりました。司会進行の岡田有史先生が会議の冒頭で触れられていましたが、当初のサブタイトルは“第二波に備えて”としていたのですが、感染拡大の状況を鑑みて、急遽サブタイトルを“地域の感染拡大に備えて”に変更しました。また、今年の病診連携会議は、“会場の密を避ける”



という目的から、初の試みとして、事前申し込み制とし、オンラインでの参加も可能としました。例年、会場となっている病院が案内作成や出席者の取りまとめなど事務的なことをしているのですが、オンラインでの開催となるため、当院のサーバー室、きづがわねっと事務局の平島ケアマネジャーと入念に打ち合わせをしました（当日は村上ケアマネジャーにもお世話になりました）。



会議では、山口泰司先生（相楽医師会会長）による開会の挨拶と新入職医師紹介の後、三沢あき子先生（山城南保健所所長）、岡田有史先生（岡田医院院長）、渡部基信先生（学研都市病院小児科部長）、大植由紀子Ns（当院感染症管理認定看護師）が、それぞれの立場から取り組みの報告をして下さいました。また、報告の後の意見交換では会場からだけではなく、オンラインで参加頂いている先生方からチャットで質問があり、私自身、“オンラインで開催していること”を改めて実感しました。活発な意見交換のため、予定されていた2時間を越えていたのですが、大変有意義な意見交換でした。そして、当院の中井一郎院長の閉会の挨拶で会議は終了となりました。

*

今回、計61名（オンライン20名、会場41名）の先生方が参加されました。後日、オンラインでご参加頂いた先生方に感想をおたずねしました。「病院に行かなくても会議に参加できて良かった」と感想を頂戴した先生方が数名おられ、今後も、あらゆる会議や研修会で、オンラインでの開催の頻度が増えていく予感がしています。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

感染予防対策のために

～ 患者サポート推進室の取り組み

感染症予防対策のため、患者サポート推進室が行っている取り組みを紹介します。

○車椅子の清掃について



1日1回程度、使用後の車椅子を清掃しその後使用される患者さんが安心して使用して頂けるよう、よく触られる部分（手押しハンドル、介助用ブレーキ、ハンドリム、アームサポート、フレームなど）を重点的に清掃しています。

○検温について

4月20日より、病院正面玄関で、院内に入られるすべての方に職員が交代で実施しています。7月からは赤外線サーモグラフィによる検温を実施していますが、ご自身でサーモグラフィの音声に従って検温してくださっているため、スムーズに検温ができています。37度以上の方は専用スペースで休んで頂き時間を置いてから再度検温しています。必要に応じて、発熱外来担当者に連絡し、対応を依頼しています。

○発熱外来のサポートについて

発熱外来を受診される患者さんのサポートをしています。具体的には受付事務手続きや発熱外来の説明・案内（誘導）を行っています。このような時期ですので、発熱されて心身とも疲弊されている患者さんに少しでも安心して頂けるよう心がけています。

(患者サポート推進室 鵜飼 小莉絵)

令和2年8月の問い合わせの状況について

～ お気軽にお問い合わせ下さい～

令和2年8月は、24件の問い合わせを頂戴しました。いつでも、お気軽にお問い合わせ下さい。

0774-73-1818 (担当：中野・中嶋・松田)

